

陳 情 文 書 表

受付番号	第30号
受付年月日	令和4年11月21日
件名	部活動の廃部等に関する陳情書
陳情者	三田市 XXXXXXXXXX 北本 歩
要旨	<p><陳情の要旨></p> <p>今、富士中学校では、部活動の存続の危機にある部が三つあります。来年度の新入生に対して、新たに部員を募集しない可能性があるというのです。具体的には野球部とサッカー部、そして陸上部です。ひとつの部に二人以上の顧問がつかなければ、安心安全な部活運営ができないことが理由だそうです。</p> <p>しかし、富士中学校の部活動運営において、必ずしも複数の先生方が日々の指導に来てくださっている訳ではありません。部活動を見て頂ける先生と、部長を中心とした我々生徒が協力し、安全面に十分配慮した部活動を行っています。またスポーツ庁の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」や「三田市部活動ガイドライン」に、「学校の設置者は、各学校の生徒や教師の数、部活動指導補助員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員補助員を積極的に任用し、学校に配置する」と書いている上、「校長は、部活動が安全に指導、運営および管理できるよう、学校の実情に応じて顧問が複数の部を兼任することは可能である」と記されています。</p> <p>このような工夫がなされることなく、すでに長坂中学校、上野台中学校の野球部など廃部となってしまった部もあります。その結果、自分がしたいことができなくなったり、三田市が目標としているはずの「スポーツ文化芸術の集団の活動の中で、夢や目標に向かって互いに認め合い、自ら考えて行動する力を育てる」ことが難しくなっている現状があります。富士中学校の陸上部は、現6年生が入部してくれることで、リレーチームや駅伝チームを組めるかも知れませんが、しかし、今のままでは、その道を令和4年度中に諦めることになってしまいます。</p> <p>令和4年9月に行われた三田市議会定例会での森本政直議員による、「公立中学校のクラブ活動について」の「少子化による生徒数の減少、それに伴う先生の数の減少等により選ぶことができるクラブ数が減っているようだが、この状況をどのように認識しているか伺う」との質問に対し、教育長は、「学校によって部活動の小規模化が進んでいることは大きな問題であると捉えている」と答弁されています。また「種目によっては一校単独で運営することが困難なケースも出ており、複数校で合同チームを編成するなど小規模校を中心に、今ある部活動が継続して活動できるよう取り組んでいる」とも答弁されています。さらに、佐貫尚子議員が部活動地域移行について質問したことへの答弁では、「全ての生徒が、自分の望むスポーツが出来るよう環境づくりに取り組んでまいります」と言われています。</p>

	<p>地域移行が具体的に進んでいく前に、富士中学校で行われようとしている部活動の廃部及び新規募集の停止は、理解ができません。市が掲げる活動目標に則っていないと言えます。部活動は、仲間と協力する楽しさを感じ、失敗や挫折からたくさんのことを学び、自分の目指す姿に近づくための一つの選択であるべきです。</p> <p>私は「部活動の廃部規定」を合同チームが当たり前になった今の時代に合ったものに改定し、一人でも部員がいるなら新入生の入部募集を行い、その競技に必要な人数が揃うまで、他校と合同チームとして公式戦に出場させて欲しいです。そうすることで、今までは廃部になった部活は二度と復活できななかったけれど、これからは一人でもその部活をしたいと思う生徒がいれば、休部になっていた部をもう一度復活させ活動するチャンスを与えることも可能になります。これから中学生になる人や、今いる生徒から「希望する部活動ができる」という「当たり前」を取り上げるべきではありません。</p> <p>三田市議会議員の皆様におかれましては、今まで以上に市民に寄り添う三田市にするため、そして今まで以上に生徒に寄り添ってくれる中学校にするためにどうかお力添えください。</p> <p><陳情事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部活動指導補助員を積極的に任用・配置すること 2. 部活動の廃部に向けて、令和5年度新入生に対して新規入部の募集停止をしないこと 3. 部活動廃部規定を時代の流れに合ったものに改定すること
付託委員会	福祉教育常任委員会